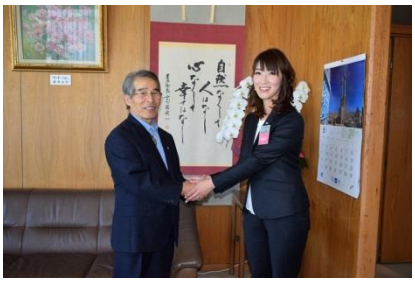
【地域の方との座談会　ｖｏｌ．０６】

対談者

美浜町　町長
齋藤　宏一　様

半田青年会議所　理事長
曽根　香奈子



自然なくして人はなし
心なくして幸せはなし

曽根香奈子（以下曽根） 大変お忙しい中だと思うのですけれど、このような時間をいただきましてありがとうございます。

美浜町長齋藤　宏一様（以下町長） いえいえ、こちらこそ。

曽根　町長のプロフィールと掲げているものに対して、「活力ある町づくりとは」ということでいつも皆様にお聞きしています。人口自体はちょっと減少している現状があると思います。ただ、女性は多く、世帯数が約八千で、女性が一万人超えをしているということは調べさせていただきました。

「美しい町・やさしい心・ふるさと美浜」というものを掲げている、その中に「心」という言葉があります。私は今年の半田青年会議所のスローガンをこの一年掲げていまして、その中に「心に華を」というスローガンの下にやらせていただいています。私自身が「すべては自分次第である」という考え方の下に、ＪＣ活動も日々の生活も仕事もさせていただいております。自分の好きな言葉で「置かれた場所で咲き誇る」というものがありまして、一人ひとりが華やかに咲き誇るようにという想いから「心に華を」というスローガンにしています。そこで、同じ言葉として「心」を使われていることの理由を教えていただきたいと思いました。それでは、町長が考える美浜町のこれからも含めて「活力ある町づくりとは」という題目でお話を聞かせていただけたらと思います。よろしくお願いします。

町長　なるほど、私の一番の理念、すべての理念は「自然との共生＋心」なのです。その中で、美浜町の町づくりのスローガンは「美しい町、やさしい心、ふるさと美浜」で、これが当初からの私の作りたい町の姿です。私は太極拳をやっていて、先生がすごい方でした。楊名時さんと言って、中国の方なのです。太極拳は中国から生まれて、日本へ渡ってきて、色んな流派があります。ところが楊名時先生は、太極拳には哲学があると言うのです。その哲学の基は何なのか。それは中国の道教の祖である老子、それから儒教の孔子、仏教の釈迦この三人の教え。それを基本にした自分なりの考えの哲学を持っていた、それが私の目指す楊名時太極拳の心だと自分たちに稽古しながら、話をしてくれました。私ももとからその考え方が好きだったからなるほどと思いました。

日本でいう「禅」の考え方にも通じるところがありますので、禅をもっと勉強しないとこの意味が分からないなと思いました。そこで、あらゆる禅の本を古本屋でもう一回買い集めて読み、「禅とは何なのか」「老子の教えとは何なのか」「孔子が教えたかったことは何なのか」「釈迦

の教えたかったことは何なのか」それをずっと調べてきたら、一番基本にあるものが「自然との共生」ということだと感じました。

「自然と人間と一体になること」だと「天地人一如」と書くでしょう。天地人一体となることが禅の基本だと。そういう風になるためにはどういう修行をしたらいいのか、何を修行したときにそういうことが分かりますか、悟ることができると思いますか。日本でいえば弘法大師、仏教をやられた方々はなぜ自然と一体となって、なぜ山で修行したのでしょうか。それから彼らは、お経を読むときに長い呼吸法を使います。同様に、太極拳も呼吸法、つまり長い呼吸と合わせながら無心になって演武するのです。そこに禅と共通したものが得ることができると思います。今の太極拳協会なんかは六十万人、七十万人いると言われているのですが、私がたまたま東京の本部で理事をさせて頂いて、その中で「医療・運動研究委員会」がありました。そこで、楊名時太極拳が医療効果的に、それから何が一番いいのかを実際にやっている人達からアンケートを取りました。それで六万人のアンケートを取った中で一番出てきた意見が「呼吸が長くなった」というものです。八割以上の人は健康になってきました。人との交わりがうまくなかった人達が、非常に交われるようになってきました。そういうデータがはっきりと出たものですから、思った通りのデータが出たと思いました。呼吸法を使うことが健康にも良いし、非常に前向きになれるということが、アンケート結果から導き出されました。それこそこれからの日本に「心」をもっともっと広めることであると思ったのです。

その「心」を養うのは、言ってみれば自然の、今までの先人たちの教えであり、原点をしっかり自分で勉強しながら、修行することであります。つまり呼吸だとかスポーツだとか、初めて自分のものになって分かります。ですから体感せずに口でどんなこと言っても駄目だと思います。

それが十二年振りにまた町長に就いて、全く今までの私の考えてきたことは間違っていなかったなという想いでいます。十二年間行政から離れていて、十六年間町長をやっていてまだまだ未熟だったなと思います。あの足りないものを今から四年間でやらないといけないなと。

曽根　素晴らしいですね。

町長　そういうことです。ですから、皆さん方々若い方には寝ながらできるのですから長い呼吸を実践していただきたいです。

――呼吸の実演――

これを毎日目が覚めたら三十分以上やるのです。そうすると、嫌でも体中の血液がすごく良くなります。そうすると悩みが消え、良い発想・正しい発想が出てくるようになります。

これに気付かせてくれたのが太極拳を始めて五年目かな。五年でもう私は太極拳の自分なりの呼吸を始めました。ですから、まだ周りは全然呼吸なんか知らない中で、自分なりの演武の中にこの呼吸法を入れ始めたら、気持ちよくやれるようになりました。そして、それを始めた平成九年二月八日から呼吸法を今から毎日やると誓ったのです。一呼吸吐いて吸って四十五秒以上の呼吸を毎日三十分以上やると誓いました。

それで今、二十一年やってきて、元気で町長をやらせていただける。町長だけじゃなく、うちの仕事もたくさんありますよ。土日になればここの仕事がないときは、家内一人でやっている四反分の畑を手伝わないといけないですしね。今までは週に六日間は太極拳を岡崎・名古屋・常滑市・地元に教えに行っていました。

それを平気でやれる、自分でも考えられないくらい動けます。これはその健康法のおかげかなと思います。ですからそれを今度は自分が人体実験をやってここ

【地域の方との座談会　ｖｏｌ．０６】

まで来たのを、町民に広めたいと考えています。

これまでも広めてきたのですけれど、それ以上にこういう立場ですからみんなにも呼びかけることもできますし、そんなことがやれればありがたいなと思いまして、戦略を練っています。

曽根　呼吸法はすごいですね

町長　はい、そういうことが私の今のテーマですね

曽根　まず、四十五秒ももつメンバーが誰もいないと思います。お話の中に心を鍛えるという部分がありましたが、私の考えで、あくまでも私の押し付けになってしまうのですが、「頑張れ、頑張れ」と言って自分次第で頑張って這い上がってきて、というところをメンバーに向けてやってしまっているところがあります。だけれど、自分自身も忙しいことと、時間がないことに余裕を持つことが正直今もできていないですし、ＪＣ活動をしていると「修練」という言葉があるように、泣きたくなるくらい苦しい思いをしながらやるのです。そのときに一呼吸おいて、心を鍛えようねという方向転換にしなくちゃいけないのだと、今お話を聞いていて思いました。

町長　これがね、あらゆるスポーツの金メダルを取るような人に共通しているのです。ですから息をフーと吐くということで、平常心に戻り、力が抜け、集中力が出ます。要は心身一体の心になるのです。それがスケートの羽生選手のジャンプの成功に繋がったり、イチロー選手のバッティングに繋がっていたりします。イチロー選手のバッティングには、全然力が入っていないでしょ。あれは呼吸がそれだけできる人じゃないと、あんな体型で打てないと思います。もうどんな球が来ようが無心の境地、力は入っていないので打ち返すだけ。

羽生選手も、ジャンプでクルクルと回っても何か野心がここにあったら必ず倒れると思います。そういう面で羽生選手はすごいですね、よく準備運動のときに呼吸をやっているじゃないですか。やはりコーチが偉いなと、ちゃんと教えているなと感じが伝わってくると思います。ですから私たち凡人でも、こういった仕事していても毎朝、呼吸法をやっているときが一番「今日はどういう対応するのかな」というようなこと考えながらやっていると、天が教えてくれるというふうになるかなと思います。うちの孫達も高校や大学へ行っていて、クラブ活動をやっています。試合や大会へ出るから、「息をやれ、呼吸をやれ」と言っていますね。孫達はおじいちゃんの言うことをけっこう聞いてくれるから、結果が楽しみだなと思って見ていますね。

実は、今までの日本の偉い人達の年齢を調べました。孔子、老子、釈迦、そして日本の弘法大師、彼らが何歳まで生きたか。彼らも必ず呼吸をやっているはずだと、研究者に調べてくれと頼んだのです。そんなこと本に書いていないでしょうけれど、それの根源は呼吸法をやってないとあんな発想は出てこないと思います。そして調べてみたら、あの当時みんな八十年以上生きていました。あの当時だったら寿命は四十歳くらいで、人生五十年と言われるのは室町時代以降です。その中で、あの人たちがみんな八十歳を超えて生きていた。呼吸をやっていた人はみんな長生きであるということの証明であると思いました。

それで間違いないなと思いましたので、本を書こうとは思っていますね。ですからこれから、町長は呼吸法のことを世の中に広めたいなと思います。自分で百二十五歳まで生きてそれを確実に示すことができたら、これは大したことだと思って生きていますので、自分の体で実験中です。

私はみかんハウスやら全部作って持っているものですから、十メートル四方の屋根の上に八十歳で上がれる人はいますか、私は一人で上がっていって一人でやれるよと笑って言っています。これで落ちてしまったら笑いものですね。

曽根　是非、落ちないでください

町長　私だけではいけないから、家内も一緒に呼吸法を必ずやります。目が覚めると今は一時間の間は私が工夫して作り上げた「就寝整体呼吸法」というのですけれど、寝ながらやれる運動、要はストレッチをやります。ですから体は柔らかいですよ。股関節広げたら真っすぐ開いてここはペタっとつきますよ。

曽根　負ける自信しかないですね。

町長　よく本を出している綺麗な女性で、きくち体操の菊池さんという方がおりますね。

その人がやることくらいのことは私も

【地域の方との座談会　ｖｏｌ．０６】

やりますから。あの人はもう初めからスポーツだとかインストラクターだとかそういうのが専門の方でしょうが、私は百姓ですので、また新たな形になると思います。

曽根　この前の周年式典のときに、歴代理事長の方がお話ししたフレーズで、町長とよく似ているなと思う言葉に「便利な世の中になっている」というものありますね。美浜町さんの取り組みでも、他の町や市にはないアプリが開発されていたりしていますね。美浜町だけに限らず半田市とか他の市町でもそうなのですけれど、たしかに便利な世の中になっていると思います。そうなのですけれど、大切なのは心を豊かにするほうが大切なのだというお言葉が、周年の最後の歴代理事長さんの挨拶のときにありました。

町長　おっしゃる通りだと思います。

曽根　本当にそのフレーズが印象深いのと、今お話を聞いていまして、やはり世の中自体はすごいスピードで変化していて、たしかにすごく便利になっているのだと思います。

　しかし、便利になっているからこそ、「次は心の豊かさを求めなきゃいけない」というフレーズに、本当に感銘を受けました。ありがとうございました。

町長　そこの壁に「自然なくして人はなし　心なくして幸せはなし」と書いてある書を飾っています。これは私が書いた、私の考え方を表した書なのですけれど、呼吸法から出てきた発想なのです。

　今から人工ロボットだとかＡＩだとか、コンピュータの世界になってきて、一歩間違えると人間の文明が人類を滅ぼす時代に、そこに気付かないと大変なことになります。人間なんてあるいは動物と一緒で、自然と一体になる気持ちでいないと自然界は壊れるばかりだと思います。やはり人間は心でしょう。お金や物があっても、自分の考えが幸せだと思えるようにならなければ幸せにはなれないと思います。貧しくても幸せな人はいくらでもいます。そう思いますね。

曽根　お金や物よりも心の持ちようであるというお考えは、素晴らしいと思います。肝に銘じて、心を豊かにしようと思います。

町長　この間も東京で総務省の勉強会に参加して、私はつくづく思いました。これからの世の中はＩＴの時代になりますから、行政もそういう仕組みを全部取り入れながら改革をしていきます、各担当が五人くらい説明されていました。しかし、総務省がするように、こういうことばかり喋っていて、本当にこれで人類幸せになるのだろうかと考えました。そう思いながらここに帰ってきて、総務省の報告を皆にしましたけれど。

　言うことも理解はできますが、今システムはパソコンなどが便利ということで、みんな使っているのですが、では人件費といった経費が安くなったか疑問です。あれだけ機械が発達したならもっと少人数でやれていいと思います。

　そうなると、まだ手書きで作業していた当時の方がよほど良いのではと思います。ここのシステムも何百台とみんな借りていて、その借り賃だけでも毎年億単位のお金がかかっているわけです。

　システム会社は儲かってしょうがないと思いますね。ソフトバンクの孫正義社長ですと、何兆円とか稼いでいて桁外れなんじゃないかと思います。何かの本に「文明の進歩は人類滅亡のときか」と書いてあったけれど、そうなっても不思議ではないのかもしれませんね。

曽根　そうなのですね。

町長　今いった呼吸法だとか、自然との触れ合いをさせるために農福連携、農業だとか林業しかないと考えています。ですから、そういう触れ合いのときを持てるような町にしようと呼びかけていますし、そのような美浜の町おこしを今職員に投げかけています。

曽根　はい。

町長　皆さんここへ来るとね、果物狩りはあるわ、イチゴ狩りはあるわ、メロン狩りはあるわ、花は見られるわ、体験もできるわ、障害者だとかお年寄りたちとも触れ合えるということで、トキメキが出るのだとお聞きします。私もその通りだと思います。「うわあ、花が咲いた、うわあ、実がなった」というような自然との触れ合いがここにはありますから。

　そういう町づくりがうちとしての一番適地と思います。美浜町は空港が近いし名古屋に近いし、知多郡内でも一番自然や山が多く、森林面積が広いのですよ。ですからそれを有効に活かすこと、これはもう私の始めからの夢だったのですけれど、なかなか、十六年間では推進できていませんでした。歳を食ったこともありますし、ちょっとペースを上げようと思っています。

【地域の方との座談会　ｖｏｌ．０６】

昨日はＪＡの総会だったのですが、知多は全国で三番目に優秀な農協なので五百人集まりました。その総会で私に来賓挨拶をやってほしいと話がありました。

最近政府がちょうど農福連携をようやく叫び始めて、うちはもう農福連携しかないと話をしました。農業に年寄りも障害者もみんな参画することによって、まったく変わってくると思いますし、統計ではっきりとしています。男性は定年退職してしまうと、うちに入ってしまって、テレビ観てごろごろしています。ところが女性は結構圧倒的に外に出ていろいろな方々と交流しています。これが男性と女性の差。そこでこれからはそういう花や果物などの栽培を通じて、男性達にもそういう交わりをできるようにしていきます。

特養の中でも介護だけでなくて、そういうふれあいを持たせることで、すごく変わりますし、そういう時代に入ると思います。ですから、うちはそのモデルケースをやろうとしています。今やっと政府が農福連携を進め始めていまして、はじめはよく補助金がつくから、それをいち早く取り入れて町おこしがやれたらといいなと思って、職員には話をしながら計画をしています。お年寄りが働くことできれば、若い人たちが年金を食われなくていいのです。私の時代でしたら、グラフで書くと税収中の支出の半分近くは、厚生費と医療費と介護費です。あとの半分はこの中に教育と保育費、産業の活性化、土木建設費など、みんな入っています。こんな半分の中でこれだけ三つも四つもあるので、予算の取り合いになるから十分な予算なんか作れるわけがないと思います。今まではそうではなく、どんなに多くても三分の一くらいが保険衛生関係の費用でした。それが今ではもう本当に半分に近いくらいになりました。それが今から団塊の世代の引退がくる一方で子どもたちが減っているという大変な時代なのですよ。若い人たちの年金は、全部先輩たちが消費してしまっていると思います。今までは団塊の人たちが多く、高齢者が少ない訳ですから手厚い介護をしても金額は知れていますけれど、今からはそんな訳にはいかないと思います。人口比が逆になってしまうので、そんなの目に見えています。借金も一千兆円だなんて言いますが、それも毎年毎年増えているのが現状です。そういうことを考えると、年寄りは死ぬまで健康じゃないといけないし、生きているだけで若い人たちの世話にならなくて死んでいけるような、社会づくりをしていかないとどうしようもないと思います。ですから、そういう環境を年寄りに作ってやりたいです。それを是非行政と団体が一体になって声を上げてくれると広がっていくから、ＪＣにもお願いしますね。

曽根　かしこまりました

町長　そういうこともありまして、私は百二十五歳まで生きるのだと言っていますが、若者に迷惑を掛けることになるのなら、明日、コロっといく方が幸せなのかもしれないと思います。

曽根　大丈夫だと思います。

町長　今からはもう本当に少子高齢化ですから、お年寄りがピンピンやれないと日本はやっていけないから若い人たちの活力を、年寄りに与えてあげてください。

そして、皆さんにお願いしたいのが、この間半田ＪＣのＯＢの人達がこれまでやった大きな功績として、新美南吉、山車まつり、それで三番目は何と言っていたか忘れてしまいましたが、四番目に音吉トライアスロンと言っていました。僕はこの音吉トライアスロンをもう一回復活したいと思っています。第一回は本当に半田ＪＣのおかげでした。私たちと一緒に警察へも何回でも行っていただきました。そのような協力もあってトライアスロンを実施することができました。最後には私たちで十五回目までやりました。十六回目は、町長が私から代わったとたんに、初めて台風で中止になってしまいました。私のやった十五回のときはどんなに前日に台風が来ても天気になったので、よほど心がけは良かったなあと思います。

そこで、神谷町長にも「もう一回トライアスロンを復活してほしい」と言ったのですけれど、結局実現はしませんでした。もう日にちがないから、今年は無理ですけれど、来期はもう一回ＪＣの方の協力を得て復活をしてほしいです。愛知県のトライアスロン協会の四十周年に招待されたときに、みんな知った人ばかり集まってくれて、そのときはまだ町長でもないときですが、もう一回復活しましょうよ」ですとか「やろうや」と声をか

【地域の方との座談会　ｖｏｌ．０６】

けてくれました。

そういう集まりがガイシセンターであったのです。それでまた私が町長に復活して、あなた達のようなＪＣの記念式典まで出させていただいた。そのときも、昔の一生懸命やってくれたメンバーがみんな揃っていました。これは、もう一回皆さんの力を借りて復活させなきゃいけないなと思いました。協会も、あのときの音吉トライアスロンの本当にいい感じは全国で有名だったと言ってくれました。選手とボランティアとがテントの中で一緒に食事をパーとやるじゃないですか。これがまあ非常にみんなとの繋がりがあって、こんなに楽しいことはないという評判でした。ですから是非皆さんにお願いしたいです。来年やれるように半田ＪＣと一緒に考えてくれませんか。

曽根　来年のメンバーに伝えさせていただきます。

町長の言う通り先輩方で関わったのは、阿久比の竹内町長もそうだと聞いています。他の関わった先輩方でも、やはり常にその話について良く耳にします。

町長　今でも、その当時のメンバー達と顔を合わせると、ああ、と言って声を掛け合いますしね、本当に懐かしいです。

彼等のおかげで開催できたと思っています。はじめはＪＣの人々に職員が教えられて動いていました。当時の職員では、ＪＣのようにパキパキとやれないのですよ。それでまあ第一回目はＪＣ仕込まれました。グループ毎に分かれての打ち合わせや協議をすると、ＪＣはハイハイと返事してやるのですけれど、職員はノロノロとしていました。しかし、あれから職員が経験をしたからなのか、担当ごとの仕事に対して責任をもって動くようになりました。ですから、このチームワークというのがすごく良くなったと思います。あれは本当にＪＣさんのおかげ。是非また一緒に力を貸してください。これは町主催でやるけれども、ＪＣの人たちも入ってもらって、後援でもなんでもいいから、やっていただけるとありがたいです。

曽根　そういうお声を頂けると本当にうれしいですし、ＪＣをやっていることに誇りを持って活動しろと歴代の先輩方とか理事長さんに言われているので、話を聞くとさらにそれが強くなりますね。実は次の質問が、私たち半田青年会議所に求めるものに何がありますか、ということでしたので、先におっしゃっていただいてありがたいです。

町長　これがそのときの資料で、まだ保存していますので、見てください。

本当に当初は県警・警察庁が絶対に道路を使ってやらせない、そういう方針を出したのです。ですから当時は伊良湖と長良川しかやっていませんでした。絶対にここでやらせないと言っていたのを粘り強く交渉して実施することができました。それでその後事故もなく運営できましたし、半田市をあげて応援に来てくれていましたね。

曽根　では、道路を使って実施するということは、画期的だったのですね。また、先程の資料を見ますと、すごい予算金額ですね。

町長　本当にそう思います。これは一人一万五、六千円会費を出しますからね。

曽根　最終的な予算は今の私たちの活動費とは尋常じゃないくらい多額ですね。

それこそ阿久比の町長さんとお会いしたときも、やはりこういう時代の物の実物を見せていただいています。これは対談をさせて頂く時間に付いてきたメンバーの特権だと思っていて、貴重な体験をさせていただいていると思います。

やはり地域にすごくインパクトのあるものをやってきたというのがＪＣの誇りだと思います。

現役メンバーはそこを分かったうえで、それも引き継ぐのですけれど、やはりその時代に合った、私たちができる更により良いインパクトのある事業ができて、それが一年二年と続けられるものができるとさらに自信もつくと思います。

ありがとうございます。

【地域の方との座談会　ｖｏｌ．０６】

町長　新美南吉だとか、山車まつりなんていうのは全国規模の活動になったことはＪＣのおかげだと思います。

曽根　今年山車まつりは、短編のドラマ化の計画があります。その際にもドラマ化するというお話を頂いて、現役のメンバーにも協力の依頼がありました。

やってきたことは分かっていて、携わることはあっても、本心を先輩方から聞くときはあまり無いものですから、それもすごく良い機会を頂けるなと思います。今日のこのトライアスロンも、聞いたことがあるというメンバーは何人かいます。ただ奥の奥まで、台風が来たことも含めて、役所の方たちを動かしていたことが凄いことだと思いますし、メンバーがその話を聞いて何か感じてくれたらいいなと、すごく思っています。

町長　ＪＣが音吉のこともやってくれるとありがたいと思います。シンガポールやアメリカへ一緒に行ってもらいたいですね。

曽根　シンガポールですか。

町長　これがそのときの写真でこちらがアメリカへ首長達と一緒に、音吉の歴史を訪ねて行ったときの写真です。

曽根　この写真に写っているのは、「知多から世界へ」さんですか。

「知多から世界へ」さんは今、アメリカとイギリスでの活動をしているそうですが、先日にご縁がありまして磯貝さんと井上さんにお世話になりました。

町長　磯貝さんとはこの会のときに出会ったのですけれどね。初めて知多の首長達がほとんど一緒にアメリカに行ってくれたときの記録です。

曽根　町長、今のほうがお元気に見えますね。

町長　向こうでミュージカルをやるのです。ここが音吉の漂着地点。音吉達が一年六ヶ月漂流してたどり着いたインディアンの領地です。機会があればＪＣからも何人か一緒に行っていただけると嬉しいですけれどね。

曽根　「知多から世界へ」の企画で、八月にイギリスへ数人子どもさんたちが向かうのですよ。イギリス行きの件で、今からこのバッジのことちょっとお話をさせていただきます。磯谷さんと井上さんが、子供たちにＳＤＧｓをどのようにして分かってもらうのか、よかったらＪＣさんがやってくれないかというお声掛けをいただきました。そのときにもイギリスに一緒に行こうと言われておりましたが、残念ながら今期はもうちょっと事業が入っていて日程が合わず無理ですとお断りしたのです。

別にこれで終わりではなくて、次年度以降にご縁をお願いしますと言っていただいています。磯貝さんだけではなく、井上さんもいるイギリス行こうと言っておられまして、もう行けるのでしたら行きたいのですけれど。でもほんとに子ども達も楽しそうにしていました。機会をいただきまして、ＳＤＧｓのことをやらしていただいて、そのときに子供と触れ合ったのですけれど、やはり海外のホームステイに行くという心意気を含めて、子ども達も、一生懸命なのですね。ですからそんなところに携わらせていただくのがいいのかなと考えていましたが、ちょっと日程が合わないものですから、申し訳ありませんとお詫びをしました。

町長　私達は子どもたち小学六年生四十五人と、それから中学生、それから日本福祉大学の高校生、和太鼓部の方々も一緒に連れていったのです。ロンドンとバンカーなどで和太鼓とミュージカルをやりながらイギリスを周りました。ジャパン二〇〇一年の企画でしたが、あのときは議会に子供たちが好きな海外に連れていくのは難しいと反対されました。それなら、親がどうしても行かせたいと言っているのですが、親が同伴してでも連れて行きたいということならば、連れて行っても良いですか」と議会に聞いたら、「そのときは仕方ないね」と回答をいただきました。そこで、親御さんに聞いたらみんな付いてきてくれるとのご意見でしたので、実現することができました。

曽根　もちろんそういう機会があると行かせたいですよね。

町長　そうなのですよ。

曽根　必死ですよ、それに値段がかかったとしても行かせたいなと思います。

町長　初めてですよね、こんなにたくさんの子ども達を連れて、親も一緒に参加してくれて、二百人を超す人たちが。そして、ロンドンの一番良い劇場で公演をやって、和太鼓をやったらね、観客の反応がね、ミュージカルは英語がちょっとで、日本語ばかりですからわからないけれども、和太鼓は言葉がいらない、そう言っていただきました。そのときに、音楽というものはそういう良いところがあ

【地域の方との座談会　ｖｏｌ．０６】

るのだなと教えられました。そして、帰ってきて成人になっているのですけれど、その体験はものすごいものだと思います。なぜイギリスに行ったのかと言いますと、音吉は歴史的に見て、一番初めにイギリスから来た日本人なのです。ですから非常にイギリスとの絆が強いものですから、訪問しました。そこの総合公園の中には、イギリスの一番大きな象徴の木であるオークの木が植えられているものですから、そういう絆がやはり生かしてもらいたいと思っています。

残念なことに、音吉のやったことなんて、本当に日本では知られてないのです。これは幕末の日本が外から開国しろと言って扉を叩かれたのですけれど、この扉を外から叩いたのが音吉なのですよ。日英和親条約のときに彼はイギリス側の通訳ですから。日米和親条約のときでペリーが連れてきた通訳はウィリアムと言って、音吉と一緒にイギリスの船で日本へ帰ってきたときの宣教師なのです。ですから音吉とはツーカーの間柄でした。そのくらい、外国の中で純粋に日本に伝えたのは音吉しかいないのです。

長州藩が、伊藤博文などがイギリスに勉強に行ったのですが、それまでは、攘夷、攘夷と言って外国を打ち払わないといかんと言うのが彼等の鉄則だったのが、イギリスから戻ってきたら開国しないといかんに変わってしまいました。ただし国を強くしないといけません。国防だけはしっかりやって、外国と手を結んでいこうというのが長州藩、薩摩藩のスローガンに変わってしまいました。私は音吉達の影響が無かったら、あんなに良くはならないと信じています。ですから、音吉のことをもうちょっと世の中に広めていただけると良いと思います。新美南吉みたいに日本人や国家が知ってもらえるようにしたいですし、私の仕事になっています。

シンガポールからナザン大統領が日本に来たときに、皇居でのパーティーのときに天皇陛下に対して、シンガポールと日本の絆は、音吉から始まったのですよということを話されたのです。これはとても嬉しかったし誇らしかったです。これは、シンガポールと日本の歴史が普通の人からすると戦争の歴史しかないのです。マレー半島からシンガポールまで渡ってきて、イギリスを追い出して、昭南島と言う島の名前にして、シンガポールを治めていました。そのときの戦争の思い出しかないと思います。しかしながら、実は既に音吉がそれ以前にシンガポールで会社を立ち上げていたのです。日本人が外国で最初に会社を立ち上げたのは音吉しかいないです。

そういったことを、もっと知っていただくために、ＮＨＫで映画化や大河ドラマにしていただきたいと頼みに行ったのですが、音吉さんは全部海外で住んでいたので、経費がかかるのでちょっと無理なのですよと言われてしまったのです。

曽根　そうなのですか。

町長　そうなのですよ。二十年前も前になりますが、名古屋支局長と話したのです。そのときに海外でやったら何十億円もかかってしまうとのことです。ハリウッドでザラストサムライという映画がありましたが、あの映画で三十億円ぐらいかかったとのことです。とてもじゃないけれどＮＨＫではそんなことはできないので、無理ですと言われました。そうしたら、今から十年前になりますが、今は日本が世界最先端の映像を撮る能力が高いのだと聞きまして、コマーシャルや映画なんか全部もう海外なんか行かなくても、日本で撮影できるそうです。十分の一ですから今なら三億円でできると言われました。

曽根　映画化も良いですけれど、ＮＨＫの大河ドラマでやってほしいですね。

町長　そう、やってほしいからこれは私の死ぬまでの夢なのです。

曽根　ぜひ実現をしたいですね。

町長　それを実現するためにこの町長の仕事をする理由の一つですし、実際に実現できたら町も有名になるし観光客も来ると思います。そして、大河ドラマになってもおかしくないくらいの人物である

【地域の方との座談会　ｖｏｌ．０６】

と思っています。

曽根　最初に質問させていただいた、活力ある町づくりというのは、知ってもらうことと、その地域の魅力をどうやって広報していくかということが、凄く重要だと思うのです。その部分では私は大河ドラマもそうですけれど、一瞬にして凄い反響になるではないですか。

町長　若い人たちのやっているネットの社会とかも、こういうことは早いですからね。

曽根　それは早いとは思います。ですので、今日ここに来させていただいて、掲載する記事では音吉さんのことを書こうと思います。

町長　いや、嬉しいな。

曽根　ＳＮＳでは発信した記事に対して、読んでいただいている数がすぐに分かるのです。そうしますと、現在半田青年会議所のＦａｃｅｂｏｏｋは発信することで毎回五百人近くの人に見ていただいています。やはり発信力は大事だなということはすごく感じました。ありがとうございます。

申し訳ありません、ちょっと長くなってしまいましたのですけれど、私達の今年の取り組みとして一点紹介をさせていただきます。先程「知多から世界へ」さんとのご縁もいただいたのも、この取り組みがきっかけでした。その取り組みはＳＤＧｓという国連が掲げた、世界の目標十七個の推進です。この十七個の目標一つひとつに細かく目標値を設定してあります。日本政府も現在このＳＤＧｓを、地域にそして世界に推進しています。私たちはこの地域の青年会議所として、この地域に広めようという活動をしています。

ＳＤＧｓとは何なのかと言われると、凄く難しくなると思います。ですから、各市町の首長様にお話をさせていただいたときに、こういうものですという概要について説明をさせていただいています。このマークを目にする機会があったときに、ＪＣさんが進めていたものだと気づいていただけたらありがたいです。

町長　そういうことなのですね。

曽根　はいそうです。

そして、私達もまだまだ一緒に勉強している最中なのです。今回、こういう資料を準備させていただきました。先程対談前に話のありました公開討論会ですとか、町の取り組みや、各会社の取り組みなどもそうなのですけれど、実は一七個の目標にあてはめることができます。

例えば、公開討論会をすることで一七の目標のうちの四番と六番と七番に該当していまして、この取り組みをもう既にやっているという形になります。一七の目標の下には更に奥深く細かい目標値がありまして、それにあてはまるというものになります。総合してこの番号になるという表示の仕方をします。

それでは美浜町さんの取り組みで何が当てはまるのかと言いますと、第五次総合計画の四の五のところに「美浜町健やか親子二一計画」というのがありました。この計画は目標値を数値化しているところがとても素晴らしいと思いますが、その取組にＳＤＧｓを当てはめると十一番の「住み続けられるまちづくりを」というのが当てはまると思います。私達もＳＤＧｓのすべてを分かっている訳ではないのですが、様々な活動に対してこのＳＤＧｓの目標値番号を割り振って取り組んでいけば、自分の周りから良くなっていって、最終的には世界が良い方向に行くのではないかという取り組みになります。一人ひとりができれば、更に町が良くなる、社会が良くなる。そして自分の周りが良くなっていくのではないかというものになります。

この先ＳＤＧｓの目標値を置いていろんな取り組みをされていくというところで、半田青年会議所としての取り組みを、町長にお話をさせていただきました。そして、ＳＤＧｓを推進する形としてカードゲームを用いていろんな方々に推進させていただいています。聞くだけだとわからないものですから、ＳＤＧｓとはこんな感じのものなのだよと言うのをゲームの中で体感できるものになっています。先日美浜の日本福祉大学の学生さんに対してもこのカードゲームを用いて推進させていただきました。彼らは介護福祉士の勉強をしている学生達だったのですが、大学の講座の中にもこの言葉が時々出てくると言うことで、どんな事な

【地域の方との座談会　ｖｏｌ．０６】

のというのを知りたいということでお声がけを頂きました。行政や企業でもこのゲームを通してＳＤＧｓを知るということが増えてきていますので、そんなときに半田ＪＣにお声掛けをいただければ、私達が推進という形で職員の皆様にでもさせていただければと思っております。

町長　なるほど、機会があればお願いをするかもしれませんね。先程話題のありました、目標値を数値化できたのは大学のお陰なのです。

曽根　そうなのですね。しっかりと数値化されているのを感じました。

町長　第五次のところからは先生が熱心ですから、しっかりやってくれています。

曽根　ＳＤＧｓは二〇一五年から二〇三〇年までの目標にはなりますけれど、今年も来年ももう少しこの取組を使いながら、社会をより良くしていくという目標を掲げて活動をして行きますのでよろしくお願い致します

町長　こんな風に取り上げていただけるのであれば、我々もしっかりとやらなければいけませんね。

曽根　非常に長くなってしまいましたが、お忙しい中ご対応いただきありがとうございました。先程の「なくして」という言葉をお聞きしたときに思ったことなのですが、私がＪＣ活動をしっかりとやろうと思ったきっかけに、「犠牲なくして成長はなし」と言う言葉をもらってしたのです。初めて町長のメッセージを読んだときに、同じ意味合いを感じると思いました。「なくして」という言葉からは、物事には前提があって、その想いを持って活動をしなくてはいけないということをすごく感じます。心に華を持って少し呼吸を整えて、みんなで活動をできれば良いなと思いました。本日はありがとうございました。

町長　いつでも話に来てください。何でしたらこちらから話をしに行きます。

曽根　はい。楽しみにしております。長時間に渡り大変お世話になりました。ありがとうございました。

齋藤　宏一　様

昭和１４年３月１０日生まれ。

愛知県立半田農業高等学校卒業。

呼吸法による整体とストレッチを実践し

「１２５歳まで現役」を目指しています。

平成３１年４月２６日より通算５期目の

美浜町長を務められています。